

金融ケーススタディ キャピタル・サービス・グループ

ファイル転送問題。
解決済み。



世界的な金融サービス会社が Accellionのセキュアファイル転送で 機密データを配信

背景

キャピタル・サービス・グループ (CSG) は、日本、タイ、シンガポール、マレーシア、台湾、中国、フィリピンの各国拠点からローンサービスと不動産資産管理サービスを世界の顧客に提供しています。

CSGは1998年の発足以来急速に成長を遂げ、これまでに合計200億米ドル以上のローンと不動産資産を管理してきました。従業員数はアジア全体で約300人です。

CSGの本拠地は日本の東京にあり、この東京拠点はCapital Servicing Co., Ltd.とCapital Realty Inc.という2つの会社から構成されています。Capital Servicing Co., Ltd. (キャピタル・サーヴィシング) は、国際的な格付け機関から複数のサービス分野において非常に高く評価されていて、CSGの地域拠点全てのモデルになっています。

CSGの成功の秘訣は、その最新鋭のシステムと、しっかりと定義されたポリシーとプロシージャにあります。CSGはこの基本を大切にすることで、急速に発展しつつある国際資産管理環境に的を絞った資産管理/サービスプラットフォームを作り上げることができました。CSGのモデルは、比較的短期間に新しい国々や市場でローカライズ可能なので、リソースに余裕ができた分だけ各国や各投資に固有の問題により多くの注意を向けることができます。

課題

Eメールシステムでは添付ファイルのサイズが10MB以下に制限されていましたが、CSGはより大きなサイズのファイルを簡単に転送できるソリューションを必要としていました。このソリューションは、ネットワーク全体を通してインプリメントと統合が容易で、従来のSFTPベースのプロセスよりも一層堅牢である必要がありました。CSGは短期間SFTPを使用してみましたが、アカウント設定が面倒で柔軟性に欠け、多くの時間とリソースを必要とし、ユーザがインプリメントしにくいという欠点がありました。

セキュリティが非常に大切でした。日本は2005年に厳しいプライバシー法を制定しましたが、個人情報を取り扱うCSGは、その法律に従って情報をセキュアな方法で目的とする受取人に対してのみ配信する必要がありました。

CSGが必要であると見なした主要ビジネス要件：

- 現在のポリシーとプロシージャに準拠してセキュアなチャンネルとプロトコルを介してファイルを送信できること
- 機密データを暗号化できること
- 2要素認証できること
- MS Outlookクライアントで簡単に使用できること
- 既存のシステムと統合が容易であること
- クライアントとの間のファイル転送を自動化できること
- フォームファクターが仮想アプライアンスであること

「Accellionのソリューションはインプリメントと管理が非常に簡単です。Accellionシステムを使用し始めて1年が経過しましたがダウンタイムはゼロで、Accellionのスタッフも弊社のニーズに合わせてきめ細かく対応してくれました」

アレックス・レビン
VPグローバルインフラ管理部部長
キャピタル・サービス・グループ

- 多言語に対応していること (日本語と英語)

ソリューション

Accellionは、以下のように、CSGのファイル転送要件を全て満足することができました：

セキュアなチャンネルとプロトコル： 借り手データの取り扱いに関する日本の法務省の規則を満足するため、キャピタル・サーヴィシングは、データが送信中であれば静止中であれば常に暗号化されていることを保証するソリューションを必要としていました。Accellionのセキュアファイル転送はこの2つの要件を満足します。送信中のデータに関する要件は、クライアントとの接続にhttps (ポート443) SSL暗号化接続を義務化することと、クライアントがデータを送信する前に正しいネットワークに接続されていることを証明書で確認することで満足されます。さらに、Accellionのファイル追跡と報告によって情報が目的とする受取人に送信されたことが確認できます。

停止中のデータに関する要件は、データがファイル転送サーバによって暗号化されてから、キャピタル・サーヴィシングもしくはサードパーティークライアントが取り出すことができるようにポストिंगされることで満足されます。万一サーバが社外もしくは社内からの攻撃を受けて不正にアクセスされたとしても、データはその送信人が受取人しか解読できません。データの暗号化は、日本の法律に準拠しなければならないというだけでなく、データの機密性を守るという現在と将来

金融ケーススタディ キャピタル・サービス・グループ

ファイル転送問題。
解決済み。

 CAPITAL SERVICES GROUP

来の要件をキャピタル・サーヴィシングが満足しているというクライアントからの信頼感を得る上でも重要です。

添付ファイルのセキュリティをどのようにして達成するかについての2009年度のキャピタル・サーヴィシングの計画が格付け機関向けに発表されたとき、Accellionのソリューションがファイル転送に関わるセキュリティとコンプライアンスの要件を全て満足していたのでその格付け機関は「とても」驚きました。

統合が容易：キャピタル・サーヴィシングの大部分のプロジェクトが統合システムに依存しているのでこの要件は必須でした。CSGは中小企業なので、全てのシステムに専門的な知識を有するスタッフをグループ内で抱えておくだけのリソースがありません。ファイル転送ソリューションに求められる要件の1つが、インプリメントと管理が容易で、非常事態が発生した場合には全IT要員に迅速にトレーニングを実施できることでした。もちろんAccellionのセキュアファイル転送はこの要件も満足できました。CSGのVPグローバルインフラ管理部部長のアレックス・レビン氏は、「セットアップに5～10分、コンフィグレーションに15分かかっただけで、私たちはもうシステムを立ち上げて稼働させることができました。各設定には分かりやすい説明があり、各設定の働きが特にトレーニングを受けなくても理解できました」と語りました。

仮想化：CSGの要件の1つが仮想化ソリューションであることでした。アレックス・レビン氏は、「私たちのビジネスサイズを考えると、仮想化ソリューションの方が、物理サーバソリューションよりも、ローカルとリモートのいずれの事業継続計画においても実施がより容易かつフレキシブルで、費用効率も優れています。Accellionの仮想アプライアンスは私たちのインフラに最適で全く問題がありません。インストールが30分以内で完了したのは全く驚きました！」と語りました。

多言語対応：CSGがAccellionソリューションを選ぶにあたっては、Accellionの多言語対応能力とグローバルプレゼンスも重要でした。CSGの旗艦会社であるキャピタル・サーヴィシングは東京にあって営業範囲がアジア全体に及ぶので、そのソリューションに日本語、中国語、英語のユーザインタフェースが備わっていることと、アジアにAccellionのサポートチームがあってアクセスが容易であることが高く評価されました。

実施：Accellionシステムは、差し迫ったニーズに対応するため、まず投資家リレーションズとローン管理の各ビジネスユニットで実施されました。時間の経過とともに、Accellionシステムが非常に信頼性が高く堅牢なソリューションであることが証明されました。アレックス・レビン氏は、「東南アジアの文字セットは2バイト文字であるという特殊性から新規の課題がいろいろあったはずですが、Accellionの開発チームは弊社のニーズに合わせてきめ細かく対応してくれました。Accellionシステムは、1年前に導入して以来ダウンタイムがゼロでその堅牢性が証明されました！」と述べました。管理という観点からすると、Accellionシステムは非常にシンプルで、経験の浅いIT管理者でも数分のトレーニングで管理できるようになります。だからこそAccellionシステムを迅速簡単に実施できたのです。

費用と時間の節約：クライアントに送信されるデータの機密性を考えると、Accellionシステムで得られる最大の費用便益は、それによって提供されるセキュリティにあるといえます。データが一度でも漏洩すると、そのことによる金銭的な損失は非常に高くつく場合があります、会社の信用が失墜して新規ビジネスの獲得に支障をきたすことにもなります。Accellionの製品は、データを暗号化してセキュアにすることで、キャピタル・サーヴィシングのこのようなリスクを低減できます。また、ファイル追跡機能があるので、添付ファイルにミスがあった場合にもそのファイルをいつでもリコールできます。

また、第二の費用便益として、Accellionのセキュアファイル転送ソリューションはCSGの仮想環境中で実行可能なために、CSGは過去に購入したハードウェアに新規プラットフォームを統合することで新たなハードウェアや保守のための追加の費用が不要になる点を挙げることができます。さらには、統合することで、CSGの事業継続計画に沿ったデータ復旧プロセスが簡素化されるという利点も生まれます。AccellionはIT管理者が簡単にインストールして使用できます。経験の浅いIT管理者でも短時間のトレーニングで十分なので、トレーニングとサポートに要する費用と時間が節約できます。

第三の費用便益は、従来は機密レポートはITメンバーがデータをディスクに焼き込んでそれをサードパーティのクライアントに郵送していましたが、それが不要になるということです。プロセスという観点からすると、従来、キャピタル・サーヴィシングはデータをCDに焼き込み（毎月機密データを10枚のCDに焼き込み）それをクライアントに郵送していましたが、クライアントの手元に渡るまでに24時間以上もかかっていました。それが今ではEメールで瞬時に送信できるようになったのです。さらには、ヘルプデスクのCD郵送に関わる時間が不要になるというメリットもあります。Accellionを使用することで、キャピタル・サーヴィシングは情報をその日のうちにセキュアに配信することができ、CD郵送プロセスからITを開放することができました。アレックス・レビン氏の計算によると、このプロセスにおける時間と費用の低減は、郵送費用の低減も含めて工数にして毎月6～8時間でした。これは金額にすると毎月\$360～\$600の節約に相当し、さらには生産性の向上とヒューマンエラーの低減を意味します。これは、アレックス・レビン氏の言葉を借りれば「明らかな効率改善」です。

利点

- Eメール添付ファイルのサイズ制限の撤廃
- セキュアなグローバルコラボレーション
- IT管理とサポートが容易
- 多言語対応
- 完全な報告と追跡
- 仮想ソリューション
- サポートスタッフが優秀

キャピタル・サービス・グループ	
導入時期	2008年
アプライアンスの数	1
アプライアンスの場所	日本
社内ユーザと社外ユーザの数	社内ユーザ250人 社外ユーザ無制限
LDAP/ADディレクトリ統合	あり